

# 令和7年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

## 第3回全体会議 記録

日時：令和8年3月10日（火）

10時30分～12時00分

場所：刈谷市役所 7階 701会議室

### 出席者

団体名・役職等	氏 名
愛知大学 教授	鈴木 誠
愛知淑徳大学 助教	熊澤 友紀子
刈谷市小中学校長会	佐野 恵子
刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
株式会社おたより 代表取締役	塚本 裕章
刈谷市自治連合会	大野 裕史
刈谷市ボランティア連絡協議会 会長	矢田部 寿子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 理事長	三輪 恒雄
NPO 法人子育て・子育てNPO スコップ 理事	米山 裕美
文化工房かりや 代表	久保田富士子
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵
一般公募	戸田 広二
一般公募	吉川 真由美
刈谷市民ボランティア活動センター	米田 正寛
市民活動部長	伊藤 雅人

### 欠席者

一般公募	石田 彰宏
------	-------

### 事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	市民協働課長	神谷 友理
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	加藤 史彦
市民活動部市民協働課	協働推進係長	遠藤 麻衣香
市民活動部市民協働課	主事	和田 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランティアネイバース	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランティアネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

## 1 開会

・定刻になり、市民協働課課長が資料確認の後、開会を宣した。以下、委員長が議事進行を行った。

## 2 議題

### (1)まちづくりん部会について

■【資料1—1、1—2】を提示し、まちづくりん部会の協議結果を事務局が説明。

### 【資料 1-1】 まちづくりコーディネーター(以下、まちコ)の活動状況

- ・令和7年4月以降、延べ52名のまちコが16件の事業で活躍。加えて、まちコが自主的に企画・参加した事業で、市民協働課が把握しているものを記載している。
- ・今年度は新規の派遣依頼が多かった。地域活動へのさらなる伴走支援も今後期待される。
- ・第2回まちコ交流会：12/14開催。参加者20人。
- ・つなぎの学び舎：受講生17人が修了、内、まちコに10人が登録。小学生、大学生などまちづくりを担う若い人材が発掘できた。まちづくりステップアップ講座は、2回で述べ21名が参加。

### 【資料 1-2】 共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討「築地自治会の事例」＝自治会活動の業務分担

- ・ポイント1：役員の方が外部応援者を受け入れ、変えていこうという気持ちになることが重要。
- ・2：皆で意見を言うようにすると、体制見直しの検討が進んでいった。
- ・3：業務平準化を意識して統廃合の上、部長制へ。担当者名を掲載することで、自分ごとになった。
- ・4：役員の組織への関わり方・意識が変化した。自治会長自身の意識の変化もあった。
- ・部会で出た意見：①他地域に参考情報を共有する大切さ、②自治会活動の担い手の範囲＝福祉事業所等も。
- ・地域活動へのまちコの伴走支援の実績ができた。まちコの周知を図りつつ各地域の希望に応じて今後も行いたい。

### ■意見交換

委員：チャレンジフェスタやってみりんは、若者にまちづくりの楽しさを伝える目的で実施。10月に中学生を公募し、6名が参画した。1人1企画を担当し、10回程度打合せを重ね、当日は7ブース(内、1つはまちコのブース)を出展した。延べ参加者は706人。運営まちコは7人だった。中学生の高い主体性が見られた。

委員：築地自治会の事例は、まちコらしさが発揮された。自治会長に責任が集中する形から、まちコが関わることで、他地域の事例を伝えながら役割分担が進み、各役員の主体性を引き出せて有意義だった。今後への提案として、まちコが自治会の会議等にオブザーバーのような形で参加できる状況が作れると、会議で課題が出たタイミングに合わせ、押しつけにならない形で事例紹介することが可能になる。各自治会の独自性を尊重しつつ、事例を自分の自治会に合わせて具体化する支援が望ましいと思う。今後、見学に行く等の機会をつくって、今回のような事例が横展開することを期待したい。

委員：先日開催された、全国ボランティアコーディネーター研究集会で、まちコの活動を紹介した。他市町ではこうした人材育成・活躍の仕組みは定着しておらず、関心を持っていただけだ。各地域にまちコが入っていく展開は以前から望んでいた。地域は色々な習わしがあるが、業務を見直すことは、比較的取り組みやすい部分。オブザーバー参加するような形でまちコが入っていき、他自治会の取り組みを共有する等をしていただけるとよい。さらに、まちコの中でも関わりの少ない方にも働きかけたり、当該地域の関わりの少ない住民の方たちの参加も促していくことができればよい。

委員長：まちコは3名ということだが、自治会の方はどんな方が参加されていたのか。

事務局：築地自治会には13組あり、その組長さんが自治会の役員になっており役員会議に出席する。そこに、まちコがおじゃまする形で関わった。

委員：こうした取り組みの中では、仕組み的な部分で変化するところと、人の関わりの中で変化することがあると思う。自治会長さんが地域では言いにくいことを、まちコとの話の中で言えたといった要素もあったのかもしれない。この事例はどんなことが機能したと感じたか。

事務局：自治会長さんが「今まで自分がやりすぎてしまっていたが、みんなで協力できる体制にしたいんだ」という正直な気持ちを役員さんに伝えることができたのが大きかったのではないかと。また、まちコが、他の自治会の事例をお伝えしながら、「自治会長さんは、自治会全体の活動を統括する立場で、自治会長さんだけが事務をするのではないよ」といったフォローをしてくれた部分もあったと思う。

委員：まちコの今年度の活躍、また、人数と年齢層など、まちコの活動者層が広がっていった点が素晴らしい。若い年齢層にまちづくりを広げていくことが以前課題にあがっていたが、早速、中学生が企画に

携わったイベントや、大学でファシリテーションされた交流会が行われていて、進展を感じた。

今後、人材が増えた折には、ファシリテーションをしっかりとできるスキルがある方と、登録されていても、まだあまり参加されていない方たちとの違いが出てくる。人材について、例えばカテゴリー分けして、得意な分野を把握しながら声をかけるといった、まちコの強みを活かす管理方法も考える必要が出てくると思う。今回地域に入られた方はそうしたことが強い分野や経験があった方なのではないか。

委員長：今回の事例でのまちコ3人はどんな方なのかご紹介を。

事務局：1人目は築地自治会にお住まいで築地のことをよく知ってらっしゃる方、2人目は名古屋にお住まいで、名古屋で町内会長をされている方、3人目は市内の他の自治会で自治会長をされている方で、当該自治会の取り組み事例を伝えてくれた。口調が柔らかかったり、はっきりしていたりといった各々の個性もうまく噛み合った。市のホームページでは、個人名は出さない形で25名のまちコ各々の得意分野や活動歴を一覧で紹介している。今年度は「つなぎの学び舎」を修了した小学校6年生（今春、中学1年に）のまちコも誕生する。

また、市民協働課では自治会も担当し、自治会長同士の研修会を行っている。そうした場で先ほどの築地の事例も紹介しつつ、市からの押しつけではなく、自治会長さん側から「まちコを活用したい」と思っただけのように、自主性を尊重しながらまちコが関わる機会を増やしていければと考えている。

委員：自治会単位で組織の見直し・改善の余地がある一方、組単位でも課題・悩みがあると聞く。役員選出や、女性の会の選任などに関する悩みもあり、安定した運営をしていくことに難しさが生じている。自分も新年度、地域で班長になるが悩ましい。そこで、自治会の研修をされる時に、組単位の運営のよい事例等も教えていただいて、それを自治会長さんが自分の自治会の組や班で展開していただけるとよいと思う。

委員：自分も新年度、班長と氏子総代になる。班運営のよい事例を聞かせていただけたら、それを取り入れることができると思うが、一方「例年こうだから」と言われることもあるかと思う。そのため、同時にその地域の歴史や背景を聞けると、「ここは従来のことを大事にしなきゃいけない」「ここは変えていける」といったように、自分が主体的に考えていきやすいかなと感じた。例えば盆踊りでも、言われた通りに練習するだけでなく、友だちや子どもたちも巻き込んで一緒にできたら楽しいかなとか、しかけを考えていけるかもしれない。同時に、まちコがないと回らない体制はだめだと思う。地域にバトンタッチできるようにすることが大事。私もまちコに応募しようかなと思っている。

委員長：現役の班長をしながらまちコになったら、説得力が増しますね。大きなまとまりの協議体は、仕組み論・システム論の話が通じやすいが、班や組は、色々異なる考え方や生活スタイルの住民の方々と向かい合う場であり、そこが一番難しい。前例踏襲せざるを得ない場面も多い。その現場で、色々な考え方の人と調整をして、落としどころを探っていくという役回りは大変で切実な課題である。ぜひそうしたところで役立つ情報共有や、まちコの皆さんの活躍の場を作ることを考えていただきたい。

## (2) 夢ファンド部会について

### ■【資料2-1, 2-2】を提示し、夢ファンド部会の協議結果を事務局が説明

#### 【資料2-1】令和7年度 かりや夢ファンド補助金活用事業の実施状況

##### ○上段「まちづくり活動支援事業補助金」

- ・1~4は、事業実施・精算が完了。5「俳優松原実智子さんの朗読を聞く会 VOL.2」は、3/15に実施予定で実績書類を後日提出。6「子どもと大人をつなぐ刈谷コミュニティプロジェクト」は、事業実施は完了、現在、実施報告書類を確認中。当初の補助金支払予定額5万円を8,000円へ減額する連絡あり。理由は、宿泊イベントについて安全確保・人員確保の課題による開催の見送りに伴い、謝礼・食糧費・施設利用費が減額したことによる。

##### ○下段「まちづくりびと支援事業補助金」

- ・今年度は申請3件。いずれも精算完了。

#### 【資料2-2】令和7年度 かりや夢ファンド補助金公開審査会 審査結果(1/24)

- ・まちづくり活動支援事業補助金（20万円以下）には5件申請があり、全件採択。
- ・補助採択額は、1「お仕事見学、体験プロジェクト」は101,000円、その他は各20万円。
- ・NPO法人設立支援事業補助金は、今年度は申請なし。

### 【資料2-3】 かりや夢ファンドへの寄附実績

- ・企業・市民からの寄附に対し、市が同額をマッチングし、市民活動支援基金へ積み立て。
- ・寄附金は夢ファンド補助金に加え「笑顔あふれる地域づくり補助金」にも活用。
- ・交付額は資料記載の通り。

### ■意見交換

委員：収入について、R7年度のふるさと納税額が大幅に減った理由は何か。

事務局：ふるさと納税サイトでは、12メニューがあるが、表示の順序が変わったことによる影響と考える。これまで市民活動支援事業が一番上だったが、子育て分野が一番上になった。

委員：今年度は子育て分野が増えているということか。上の方の表示される枠を庁内で取り合いにならないか。

委員：選挙の際にも端が注目されやすいという、人間心理的な傾向がある。ずっと同じものが上位にあると取り過ぎになるので、状況に応じて変更がなされている。

委員：補助金が多く活用されているという実績があり、要望を出せば、表示の順位が上がるかもしれない。

委員：市制75周年記念として笑顔あふれる地域づくり補助金は、10分の10補助で、20万円予算規模であったが、自分の自治会でも活用した。刈谷市のこうした制度はありがたい。

委員：この委員会に来るまで、かりや夢ファンドやまちコの活動を知らなかった。中学生の活躍は幅広く、生徒会が集まって中学生サミットをしたり、学内外でまちづくりについて話し合ったりしている。素晴らしい活動がされているので、積極的に発信し、子どもたちや保護者に伝わって巻き込んでいけると、さらに広がりが出てくると思う。

委員長：市内小中学校の要望も聞き、市の取り組みも伝え、情報を伝え合っていくことが重要。その中で、年度の行事がうまく回り、連携していけるとよい。

委員：採択団体のスライドを投影いただき、活動の様子がわかってよかった。今年度は申請件数が増えてよかった。どの団体も思いがあり当事者性も強く、審査のしがいもあった。一方で、補助金申請・実施・運営・報告にはテクニカルなスキルも必要である。まちコ活動で報告書作成のお手伝いをしたのはよい事例だと感じた。申請書作成や、申請後の実施面におけるテクニカルな支援をどう取り組んでいくか、部会としても課題であると思った。

委員：「子どもと大人をつなぐ刈谷コミュニティプロジェクト」について、お泊まり会以外はスケジュール通りでできたのか。

事務局：他の事業は問題なく実施できたと聞いている。

委員：実施面で課題が出る問題について、例えば、申請1回目の事業はまちコが関わるという仕組みにしてはどうか。最初の会議に同席したり、報告書作成をお手伝いする等の伴走支援の仕組みは考えられないか。

委員：団体として今取り組んでる事業がベースにある内容ならよいが、「できたらいいな」くらいで話し合っていると、申請してみようと思ったが、やっぱり難しかったと感じることも多い。言語化して、どう書くと資金を獲得できるかがお手伝いできるとよい。

また、先ほど他の委員が言われたように、1回目は自動的にまちコの伴走があるというのはよい仕組みだと思う。実施段階でも補助金を有効活用できるようお手伝いができるとうい。

委員：私自身、かりや夢ファンド補助金に応募し、無事事業も終了した。応募した理由として、自分がまちコなので、同補助金の事業がどんなものか体験をしてみたかったというのがあった。事務局に丁寧に対応いただきながら経験できた。何を目的に行うのかは、自分たちの活動があいまいにならないように内容は削らずしっかり書いた方がよい等を実感した。5万円以下枠もあるが、初心者にとってはや

はりハードルは高い。でも、1回経験すると、審査でどんなことを質問されるのかが実体験としてわかる。なので、まちコの方も、かりや夢ファンド補助金を使って一度事業を経験してみると、今言われたような、まちコが初めての申請団体に伴走することが循環していくと思う。

委員：まちコのスキル表と、サポートしたよい事例が組み合わさり、積みあがるとよい。また、まちコから、「補助金申請書の書き方講座を勉強するので、やりたい人がいたら一緒にやってみませんか」と、まちコ以外の人たちと一緒に勉強して、後に、「あの時に一緒に勉強した人が、サポートもしてくれる」といった流れが生まれるとよい。

委員：悪いことではないが、申請する方に年配の方が多い傾向がある。中高生は、ほんやりとやってみたいと思っていることはあるが、文章にする機会はなく、この補助金も知られていない現状がある。補助の申請書をつくることは、ロジカルな要素がある。課題があり、その背景があり、それに対して取り組みを行うと、こう良くなっていくという流れで考える。若い人が学習しながら実践するというようなカリキュラムがモデルケースになっていくとよい。SNSやAI等を普段から使っている若い人が考えるものとはどんなものか興味がある。こうしたことを、意図的にしかけ、口出しすぎないようにまちコが関わるとおもしろい内容が出てくるのではないか。20万円というのは中高生にとっては大きな金額で、色々な可能性につながりそうである。

委員：刈谷西部自治会の取り組みでも、中学生から企画アイデアはたくさん出てくるし、企画書を書くこともできる。また、当日を迎えるまでのToDoリストや当日の手順書も作ることができるのを見て、ポテンシャルを感じた。大人になったときの活動が楽しみである。

また、まちコの活動については、最初は話し合い等のファシリテートに焦点が当たっていた。次に、コーディネーションも行うようになってきたが、今の話を聞いてコンサルテーションに、今後取り組んでいくのかなと感じた。時間はかかりそうだが、まちコ世話人としてそこまで取り組みたい。

委員長：建設的なご意見が多数出ました。やることがたくさん生まれてよいですね。ありがとうございました。

### (3) 市民協働事業の進捗状況について

#### ■【資料3】を提示し、市民協働事業の進捗状況について事務局が説明

##### 2. かりや衣浦つながるネット

- ・団体情報の閲覧や参加者・ボランティア募集、申込みが可能。
- ・10月19日(日)に刈谷市福祉健康フェスティバルでPRブース出展、2月5日(木)に3市1町の市民活動団体を招いて交流会開催(テーマ「楽しく活動するために工夫していること」)。

##### 3. わがまちのつむぎ場

- ・12月7日(日)刈谷市民ボランティア活動センター(以下、ボラセン)で開催。ボランティア・企業等28団体が活動を紹介。積極的な交流・情報交換がされた。市民協働課とまちコくらぶも出展し、活動をPR。

##### 4. 共存・協働のまちづくり講座(実践編)

- ・令和6、7年度に係長になった市職員25人が受講。稲葉久之さんの講義の後、担当する事業において協働をどう行えるかを考えるグループワークを行った。

##### 5. わがまちのしゃべり場

- ・2月14日(土)ボラセンで開催。参加者20名。スポーツ、お祭り、子育ての分野で5名のゲストを招き、それぞれの取り組みを紹介後、参加者同士で語り合った。

##### 6. 協働のまつり場

- ・2月3日(火)に開催。「どんな人に、どう伝えたら、がん検診を受けるだろうか」をテーマに2グループで話し合い、対象者への効果的なアプローチのヒントや新たな発見を得た。

- ・特に、質疑意見なし。

## 2 その他

■委員長より、他地域ではどんなまちづくりの課題に直面し、克服に向けた取り組みをしているか、参考にするための話題提供がされた。

「高山市のまちづくりにおけるコミュニティ創出の未来～福井県坂井市との比較調査から見えるもの～」  
ゼミ生がまとめた資料を投影

●高山市の背景：日本最大の面積を持つ市。人口8万人を切り、広域性と人口減少がコミュニティ維持の困難性を高めている。観光と生活が共存する「生活観光都市」。R7年4月に総合計画が策定され、それと連動させて、学生による調査・提言が行われた。「飛騨高山学会」もある。協働社会の構築を図っている。

●研究の目的：高山市の地域コミュニティ、特に町内会の現状と課題を整理し、福井県坂井市との比較を通して、高山市が今後目指すべき持続可能なコミュニティの方向性を提示すること

●高山市の地域コミュニティ：278単位町内会、21の連合町内会がある。過疎・高齢化により、暮らしを支える基盤となる単位町内会をどう守るかが課題となり、町内会を補完する仕組みとしてまちづくり協議会（以下、まち協）を組織した。主な仕事は「町内会支援」「地域の防災支援」「地域の福祉支援」。ここに、多様な主体（NPO、企業、地域おこし協力隊等）や新しい人材が関われる仕組みを目指している。

●高山市における町内会の現状と課題を、「①町内会長研修大会」「②ヒアリング」を元に整理した。

・①は、119名の町内会役員が14のグループに分かれワークショップで話し合った（市職員・学生各14人がグループに入る）。

・②は、22町内会と、1まちづくり協議会に実施。

→町内会の活動分野は、「行事・交流」「相互扶助」「見守り・支援」「防災」「環境整備」の5分野があり、住民にとっても、孤立防止、困った時に支え合える関係の維持など、必要性・意義が高いことが確認できた。

→「町内会」には、人手不足、活動の維持困難の問題があり、それを補完する機能である「まち協」については、住民や町内会への認知が不足している。町内会とまち協との役割分担が不明確で、連携が確立していないことが確認できた。

→都市部・農村部の違いがあるが、町内会で共通する課題としては、「高齢化」「若者の地元離れや少子化」「コミュニティ意識の希薄化」「町内会とまち協の役割が不明確」が浮かび上がった。

●福井県坂井市（人口8万7千人）では、住民の幸福度向上を重視し、住民主体の協働的まちづくりを先進的に進めている。市民参加や課題解決の仕組みが整備されており、持続可能な地域運営モデルとして示唆に富む。「自己実現できる」「自分らしくいられる」等、8つのwell-beingの指標がある。

→坂井市の示唆を踏まえると、以下が今後の重要な方向性と考えられる。

- ① 対話の場づくり →まち協で実施し、住民同士のつながり不足を解消して町内会関係者が集えるように
- ② 若者や移住者の参画促進 →人手不足・担い手不足の改善に向けて、関わりやすいようにしていく
- ③ ウェルビーイング指標導入 →地域差に対応し、住民の価値観に合った活動を遂行する。参加人数や支出額でなく、この観点でまちづくりを評価して進めていく
- ④ 町内会とまち協の連携強化 →活動を明確化し、連携体制を確立する

→「住民の頑張り依存するまちづくり」から、「行政と住民が対等に協働するまちづくり」に転換するため、こうした地域づくりの方向性を骨子として、コミュニティづくりについて条例化する必要がある。また、まち協がきちんと町内会を補完できるように人・金・場所・情報の整備も必要だと、提言をまとめた。

刈谷市より厳しい財政・人口の環境下にある自治体では、このような課題意識を持ち、対策に取り組んでいるという視点で話題提供した。近日報告書ができれば、お届けしたい。

委員：先ほどの議論から、かりや夢ファンド補助金予算について、希望する団体についてはまちコに来てもらい、3,000円の派遣予算を同補助金から捻出するという方法もあるのではと思った。つまり、一律

に補助金初回申請時にまちコの派遣がついてくるというより、「立ち上がりが心配」といった団体がまちコ派遣をしてもらうかを選ぶことができる仕組みだとよいと思った。

もう一点、刈谷西部自治会の中学生のような取り組みは素晴らしいので、市民だより等で紹介し、光を当ててほしい。他にもそうした事例はある、といった声も出るかもしれないが、「こういう子がチャレンジできる、それを大人が後押しをする、刈谷はそんなステキなまちですよ」といったメッセージが出せるとよい。

委員長：積極的なご意見、ありがとうございます。今日、発言できなかったことも、気づいた点があれば、事務局へご連絡いただき、次年度に活かしていただきたい。

日本社会全体でみると、人口減少社会に向かい、高齢化が進んでいる。そうした社会を見据えて、刈谷市も将来のビジョンも描いているが、私たちもその将来ビジョンを意識しながら、共存・協働のまちづくり推進委員会の活動を進めていくことも大切である。年度の始めには、刈谷市が直面する課題、目指したい将来の姿を全員で確認し、そこにより社会をつくるためのプラスアルファを加えるために、委員会をしっかりと活用しようという議論も大事である。個別ではよい成果が出ているが、それで満足するとその先何を目指すのか見えにくくなる。目指すべき社会像を意識し、そのために今何をやるべきかという組み立て方を委員会でも意識して取り組めるとよい。

## ■次回開催日（令和8年度共存・協働のまちづくり推進委員会開催予定）

### 【推進委員会】

- ・第1回 令和8年10月14日（水）14時00分～15時30分 ※第2回は調整中

### 【夢ファン্ড部会】

- ・第1回 令和8年6月19日（金）14時00分～16時00分
  - ・第2回 令和8年11月19日（木）14時00分～16時00分
  - ・第3回（公開審査会）令和9年1月23日（土）
- ※応募団体数により開催時間を調整する。  
※応募状況の経過は適宜報告する。

### 【まちづくりん部会】

- ・第1回 令和8年8月20日（木）14時00分～15時30分
- ・第2回 令和9年1月21日（木）10時00分～11時30分

以上